



「報道バンクーバーパラリンピック 写真展示会」のねらい

【報道バンクーバーパラリンピック写真展概要】

富士ゼロックス(株)は6月29日から順次同社事業所のオープンスペースにおいて、写真家清水一二氏のバンクーバーパラリンピックの写真展を開催する。この写真展は富士ゼロックス(株)で働く人々を中心に、自発的、自主的に運営しているボランティア団体の端数倶楽部が主催する。

端数倶楽部は長野パラリンピックでのボランティアイベントを期に清水氏との親交を深め、同様の写真展を開催してきた。

今回は今年4月に横浜みなとみらい地区に竣工した富士ゼロックスR&Dスクエアを皮きりに同社事業所を巡回する。

問合せは富士ゼロックス(株)CSR部社会貢献推進部環境・社会貢献推進G滝川潔まで(03-6271-4354)。

【今回の展示会の狙いについて】

リハビリテーションの延長上と思われがちで露出も多くないパラリンピック。しかしその迫力や障害を補う機械との融合美、裏に秘められたストーリーなどはオリンピックにも決して劣らず、競技スポーツとしての地位を確立している。今回、パラリンピックの写真を長年撮り続けてきた清水一二さんの写真を展示させて頂くことで、写真を見た一人一人に少しでも「化学反応」を起こすこと。それが端数倶楽部が意図する本展示会のねらいである。

< 視点 >

福祉から競技スポーツへ : オリンピックに劣らないスピード感、迫力

人と機械の融合美 : 障害を補う器具との融合によるスポーツ医学、人間工学、機械工学を駆使したスポーツの訴求

ストーリー : 障害を持っているからこそ生まれる、オリンピックにはないストーリー